

学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム

アンケート結果詳細版

本コンソーシアムについて

令和3年度から令和5年度にかけて文部科学省総合教育政策局地域学習推進課が実施する「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」では、視覚障害、学習障害などの発達障害、肢体不自由、知的障害、その他の障害を理由として、通常の書籍を利用することが難しい児童生徒の読書活動がより豊かなものになるよう、マルチメディアデイジーや点字資料、LLブック等のアクセシブルな図書の実践や、必要に応じた図書の複製・翻案や円滑に資料提供・共有が行われる体制づくりを目指しています。

このアンケートは令和4年度に実施し、速報版として結果の一部を公開したのち、令和5年度に実施した追加アンケート結果も含めた詳細版として公開しています。

令和4年度に実施したアンケートについて

アンケート調査の目的

このアンケートは、学校図書館における体制や図書・データの共有について実態を調査し、資料共有のあり方の検討や課題の整理を行うことを目的として実施されました。

調査時期

2022年12月～2023年1月

調査対象

- ① 全国特別支援学校長会に所属している特別支援学校 約1,150校
- ② 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会に所属している特別支援学級・通級指導教室設置校 約17,400校
- ③ 東京都特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会に所属している東京都の特別支援教室の拠点校 1,173校

アンケート調査にあたり、全国特別支援学校長会、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会、東京都特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会にお力添えをいただきました。

誠にありがとうございました。

方法

オンラインでのウェブアンケート。回収は一部郵送で依頼。

回収率

- ・ 特別支援学校……628校(54.6%)
- ・ 東京都以外の特別支援学級・通級指導教室設置の小・中学校等……1,669校(9.6%)
- ・ 東京都の特別支援学級・特別支援教室拠点設置の小中学校等……149校(12.7%)
→特別支援学級・通級指導教室設置校と東京都の特別支援学級・特別支援教室拠点校は、合計して「小・中学校等(1,818校)」として特別支援学校の結果と比較しています。
なお、小・中学校等とは、学級等の設置の有無にかかわらず、小学校、中学校、義務教育学校、中等学校の前期課程を含みます。

アンケート内容

- ① 学校基本情報について
- ② 学校図書館の担当者や設置状況について
- ③ バリアフリーな図書・資料の蔵書状況について
- ④ 校内でのバリアフリーな図書・資料の製作について
- ⑤ バリアフリーな図書・資料の他館からの取り寄せについて
- ⑥ 自校で製作・所有しているバリアフリーな図書・資料の他館への提供について
- ⑦ 著作権法 37 条や読書バリアフリー法等について

結果の概要

- ・ 学校図書館の配置人数の平均として、小・中学校等では司書教諭 0.8 名、学校司書 0.8 名、ボランティア 3.6 名でした。特別支援学校全体では司書教諭 1.1 名、学校司書 0.6 名、ボランティア 1.5 名でした。
- ・ 小・中学校等では、図書館担当として任命されている司書教諭ゼロは約 3 割、学校司書ゼロも約 3 割、ボランティアゼロは約 7 割でした。特別支援学校全体では、図書館担当として任命されている司書教諭ゼロは約 4 割、学校司書ゼロは約 7 割、ボランティアゼロは約 9 割でした。単一の障害種の指導を行っていると明記された特別支援学校でのボランティアについては、特別支援学校（視覚障害）でのみ、約 2 割の学校にボランティアがおり、平均約 11 名という結果でした。
- ・ 非常勤の学校司書について、小・中学校等では週あたり平均 2 日、勤務時間は平均 11 時間に対し、特別支援学校では週あたり平均 0.4 日、勤務時間は平均約 2 時間と少ないことが示されました。ただし、数値の偏りがとても大きく、中央値で確認した場合は、小・中学校等では週あたり 1 日勤務、勤務時間は 4 時間、特別支援学校では週あたり 0 日、勤務時間は 0 時間になります。
- ・ 学校図書館専用の部屋の有無について、合計で 233 校（小・中学校等で 4.5%、特別支援学校では 31.4%）「専用の部屋がない」という回答でした。専用の部屋がない事情を確認したところ、「学校図書館が正式名称と知らず、ないと勘違いしていた」「併設校なので回答に困った」などの事情が分かったため、学校図書館の設置状況について令和 5 年度に追加調査を実施しました。その結果、30 校は専用の部屋があるという回答に修正がありました。回収率が約 50%であることをふまえると、実際に「専用の学校図書館がない」という回答は、233 校ではなく

170校ほどであることが推測されました。

- ・ 学校図書館の図書購入費の平均額について、小・中学校等では約40万円、特別支援学校では約18万円であり、小・中学校等より特別支援学校の方が、統計的に有意に少ない金額でした。単一の障害種の指導を行っていると明記された特別支援学校での図書購入費については、特別支援学校（視覚障害）が約24万円と最も多く、特別支援学校（肢体不自由）が約14万円と最も少ない結果でした。
- ・ バリアフリー図書・資料について、約7割～9割の小・中学校等、約6割～9割の特別支援学校に蔵書がないことが分かりました。標準偏差から偏りも大きく、蔵書がある学校とない学校の差が大きい可能性が示唆されました。また、デジタルデータ(テキストデータやEPUB等)については、小・中学校等、特別支援学校ともに、蔵書はほぼないという結果でした。
- ・ 特別支援学校においては、点字図書や拡大図書等は2割程度、さわる絵本は4割程度蔵書があるようです。単一の障害種の指導を行っていると明記された特別支援学校においては、特別支援学校（視覚障害）では、点字図書の蔵書は回答のあったすべての学校で蔵書していることが示されました。一方で、例えば特別支援学校（知的障害）では、LLブック等の蔵書が期待されますが、約9割の特別支援学校（知的障害）でLLブックの蔵書がゼロという回答でした。LLブックの蔵書がある特別支援学校（知的障害）でも、平均約16冊という結果でした。LLブック蔵書数の最大値は115冊ということもあり、特別支援学校の障害種別でも、蔵書がある学校とない学校の差が大きい可能性が示唆されました。
- ・ バリアフリー図書・資料の製作や、他館からの取り寄せ、他館への提供経験については、9割以上の学校で経験なしという回答でした。特別支援学校（視覚障害）では、バリアフリー図書の製作経験ありが約5割、他館からの取り寄せ経験は約6割、他館への提供経験は約1割という結果が得られました。
- ・ 学校図書館ができるバリアフリー図書・資料の製作やその共有、またデータの公衆送信ができることについて、「知っている」という回答は約1割、「知っているが具体的にはわかっていない」という回答は約3割でした。
- ・ 読書バリアフリーに関する課題感や意見を自由記述で求めた結果(複数回答あり)、「読書バリアフリーの具体的な取り組みに関する情報源の少なさ」という課題を感じている回答が最も多くみられました。他には、「予算の少なさ」や「時間・人員の少なさ」を課題に挙げている回答が多くみられました。特別支援学校では、小・中学校等よりも「司書(専任職員)の配置について」を課題とする回答が多くみられました。

課題

専門性のある司書教諭や学校司書の配置が少ないことが分かりました。特に、特別支援学校では学校司書ゼロも多く、図書購入費の予算も小・中学校等の半分以下でした。バリアフリー図書の蔵書状況もとても少ないため、専門性のある司書教諭や学校司書の配置やバリアフリー図書・資料の効果的な共有方法の構築が求められると思います。著作権法第37条で認められている、学校図書館による資料の製作・取り寄せ・提供に関する正しい知識の啓発も必要なことが分かりました。

結果の詳細

(1)学校基本情報について

- ・ 小・中学校等の児童生徒数の平均は約 300 名、学級数の平均は約 14 学級でした。
 - ・ 特別支援学校の児童生徒数の平均は約 120 名、学級数の平均は約 30 学級でした。
 - ・ 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校は、特別支援学校全体の約 6 割で、そのうち特別支援学校（知的障害）は約 3 割、特別支援学校（肢体不自由）、特別支援学校（聴覚障害）、特別支援学校（視覚障害）はそれぞれ約 1 割、特別支援学校（病弱・身体虚弱）は約 5%でした。残りの約 4 割は、併置型や総合型、回答不明の学校になります。
 - ・ 設置区分は、公立学校が 9 割以上でした。
 - ・ 小・中学校等の内訳として、小学校が約 7 割、中学校が約 3 割でした。
 - ・ 特別支援学級の障害種の内訳としては、知的障害(約 9 割)、自閉症・情緒障害(約 9 割)、病弱・身体虚弱と肢体不自由(1.5 割)の順で多くみられました(複数回答あり)。
 - ・ 通級指導教室・特別支援教室の障害種の内訳としては、学習障害(約 7 割)、注意欠陥多動性障害(約 6 割)、情緒障害(約 5 割)の順で多くみられました(複数回答あり)。
 - ・ 特別支援学校の障害種の内訳としては、知的障害(約 7 割)、肢体不自由(約 3 割)、病弱・身体虚弱(約 2 割)の順で多くみられました。
- ✓ 以下、学校基本情報に関する詳細な数値の表です。

Table1-1. 全校児童生徒数と学級数

	全校児童生徒数				学級数		
	該当数	平均値	中央値	標準偏差	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1818	302.6	261.0	226.6	13.5	12.0	7.2
特別支援学校全体	628	120.4	88.5	97.6	29.7	23.0	20.4

Table1-2. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校(*n*=628)

障害種	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	45	7.2
特別支援学校（聴覚障害）	49	7.8
特別支援学校（知的障害）	209	33.3
特別支援学校（肢体不自由）	51	8.1
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	31	4.9
合計	385	61.3

※併置型や総合型、回答不明なものは除いている

Table1-3. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校

	全校児童生徒数				学級数		
	該当数	平均値	中央値	標準偏差	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	45	29.3	26.0	14.6	14.9	15.0	5.1
特別支援学校（聴覚障害）	49	50.7	39.0	31.8	18.6	18.0	8.7
特別支援学校（知的障害）	209	144.6	124.0	95.8	29.2	26.0	19.8
特別支援学校（肢体不自由）	51	81.6	73.0	56.5	28.3	27.0	16.3
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	31	36.6	31.0	27.4	15.6	12.0	10.7

併置型・併設型・総合型、不明を除く

Table1-4. 設置区分

	小・中学校等		特別支援学校	
	該当数	%	該当数	%
国立	1	0.1	21	3.3
公立	1810	99.6	597	95.1
私立	6	0.3	10	1.6
合計	1818	100.0	628	100.0

Table1-5. 小・中学校等の内訳

	該当数	%
小学校	1299	71.5
中学校	497	27.3
義務教育校	15	0.8
高等学校	1	0.1
小中一貫教育校	6	0.3
合計	1818	100.0

Table1-6. 小・中学校等での特別支援学級等の設置状況

	該当数	%
特別支援学級+通級	717	39.4
特別支援学級のみ	951	52.3
通級のみ	1	0.1
特別支援学級+特別支援教室(東京都)	110	6.1
特別支援教室のみ(東京都)	39	2.1
合計	1818	100.0

Table1-7. 特別支援学級での障害種の内訳($n=1778$)

障害種	該当数	%
知的障害	1651	92.9
肢体不自由	260	14.6
病弱・身体虚弱	268	15.1
弱視	64	3.6
難聴	137	7.7
言語障害	106	6.0
自閉症・情緒障害	1568	88.2

※複数回答あり

Table1-8. 通級指導教室・特別支援教室での障害種の内訳($n=867$)

障害種	該当数	%
言語障害	379	43.7
自閉症	401	46.3
情緒障害	470	54.2
弱視	11	1.3
難聴	50	5.8
学習障害	566	65.3
注意欠陥多動性障害	501	57.8
肢体不自由	9	1.0
病弱・身体虚弱	8	0.9

※複数回答あり

Table1-9. 特別支援学校での障害種の内訳($n=628$)

障害種	該当数	%
視覚障害	60	9.6
聴覚障害	76	12.1
知的障害	432	68.8
肢体不自由	202	32.2
病弱・身体虚弱	110	16.1

※複数回答あり

(2-1)学校図書館の担当者について

- ・ 学校図書館の配置人数の平均として、小・中学校等では司書教諭 0.8 名、学校司書 0.8 名、ボランティア 3.6 名でした。特別支援学校全体では司書教諭 1.1 名、学校司書 0.6 名、ボランティア 1.5 名でした。中央値では、特別支援学校全体での学校司書の配置人数は 0 名でした。
- ・ 小・中学校等では、図書館担当として任命されている司書教諭ゼロは約 3 割、学校司書ゼロも約 3 割、ボランティアゼロは約 7 割でした。特別支援学校全体では、図書館担当として任命されている司書教諭ゼロは約 4 割、学校司書ゼロは約 7 割、ボランティアゼロは約 9 割でした。
- ・ 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校については、学校図書館の配置人数の平均として、全ての障害種の特別支援学校で、司書教諭約 1 名、学校司書約 1 名、という結果でしたが、学校司書の配置人数の中央値では、特別支援学校（視覚障害）が 0.5 名であった他は、0 名でした。
- ・ 非常勤の学校司書について、小・中学校等では週あたり平均 2 日、勤務時間は平均 11 時間に対し、特別支援学校では週あたり平均 0.4 日、勤務時間は平均約 2 時間でした。ただし、数値の偏りがとても大きく、中央値で確認した場合は、小・中学校等では週あたり 1 日勤務、勤務時間は 4 時間、特別支援学校では週あたり 0 日、勤務時間は 0 時間になります。
- ・ ボランティアについては、小・中学校等で平均約 4 名、特別支援学校全体で約 2 名という結果でした。単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校でのボランティアの人数は、ばらつきが大きく、特別支援学校（視覚障害）では約 2 割の学校にボランティアがおり、平均約 11 名という結果でした。他の障害種の特別支援学校では、ボランティアの平均人数は 0～約 1 名、ボランティアゼロも約 90～100%でした。ボランティアの役割の内訳としては、小・中学校等でも特別支援学校全体でも、読み聞かせが最多でした（自由記述、複数回答あり）。小・中学校等では、本の整理、図書館環境整備の順で回答が多くみられました。特別支援学校全体では、点訳などのバリアフリー図書製作、本の整理の順で回答が多くみられました。
- ・ 「この 2 年間で障害（特別支援教育ニーズ）のある図書館利用者のサポートに関する研修を図書館運営に関わる担当者が受講した」については、約 9 割の学校が、研修未経験と回答しました。特別支援学校（視覚障害）のみ、約 8 割の学校が研修未経験と回答しました。

✓ 以下、学校図書館の担当者と研修の有無に関する詳細な数値の表です。

Table2-1. 図書館担当として任命されている司書教諭の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
小・中学校等	1757	0.8	1.0	0.7	610 校(34.7%)
特別支援学校全体	609	1.1	1.0	1.1	226 校(37.1%)

Table2-2. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校で
図書館担当として任命されている司書教諭の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
特別支援学校（視覚障害）	44	0.5	0.5	0.6	22校(50.0%)
特別支援学校（聴覚障害）	47	0.7	1.0	0.8	21校(44.7%)
特別支援学校（知的障害）	205	1.1	1.0	1.1	69校(33.7%)
特別支援学校（肢体不自由）	49	1.1	1.0	1.1	19校(38.8%)
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	29	0.9	1.0	1.1	14校(48.3%)

Table2-3. 学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
小・中学校等	1755	0.8	1.0	0.7	569校(32.4%)
特別支援学校全体	610	0.6	0.0	1.3	429校(70.3%)

Table2-4. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
特別支援学校（視覚障害）	44	0.6	0.5	0.8	22校(50.0%)
特別支援学校（聴覚障害）	47	0.5	0.0	0.9	32校(68.1%)
特別支援学校（知的障害）	205	0.6	0.0	1.4	144校(70.2%)
特別支援学校（肢体不自由）	49	0.6	0.0	1.0	34校(69.4%)
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	29	0.3	0.0	0.7	22校(75.9%)

Table2-5. 常勤の学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1489	0.4	0.0	0.6
特別支援学校全体	534	0.5	0.0	1.3

Table2-6. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
常勤の学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	41	0.5	0.0	0.8
特別支援学校（聴覚障害）	42	0.4	0.0	0.8
特別支援学校（知的障害）	175	0.6	0.0	1.5
特別支援学校（肢体不自由）	47	0.6	0.0	1.1
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	27	0.2	0.0	0.6

Table2-7. 非常勤の学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1508	0.5	0.0	0.5
特別支援学校全体	522	0.1	0.0	0.3

Table2-8. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された
特別支援学校での非常勤の学校司書の人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	40	0.2	0.0	0.4
特別支援学校（聴覚障害）	41	0.1	0.0	0.3
特別支援学校（知的障害）	171	0.1	0.0	0.3
特別支援学校（肢体不自由）	45	0.0	0.0	0.2
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	0.1	0.0	0.3

Table2-9. 非常勤の学校司書の1週あたりの勤務日数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1462	1.9	1.0	2.8
特別支援学校全体	506	0.4	0	1.8

Table2-10. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
非常勤の学校司書の1週あたりの勤務日数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	39	0.7	0.0	1.7
特別支援学校（聴覚障害）	40	0.5	0.0	1.5
特別支援学校（知的障害）	164	0.5	0.0	2.6
特別支援学校（肢体不自由）	45	0.0	0.0	0.2
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	0.3	0.0	0.9

Table2-11. 非常勤の学校司書の1週あたりの所定労働時間

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1423	10.5	4.0	23.9
特別支援学校全体	502	1.8	0.0	7.3

Table2-12. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での非常勤
の学校司書の1週あたりの所定労働時間

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	39	4.4	0.0	10.9
特別支援学校（聴覚障害）	40	3.4	0.0	10.0
特別支援学校（知的障害）	162	2.1	0.0	8.4
特別支援学校（肢体不自由）	45	0.1	0.0	0.5
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	2.1	0.0	6.5

Table2-13. ボランティアの人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
小・中学校等	1738	3.6	0.0	8.2	1,149校(66.1%)
特別支援学校全体	605	1.5	0.0	17.3	568校(93.3%)

Table2-14. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
ボランティアの人数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	配置ゼロ
特別支援学校（視覚障害）	43	10.6	0.0	44.7	32校(77.4%)
特別支援学校（聴覚障害）	45	0.0	0.0	0.0	45校(100%)
特別支援学校（知的障害）	204	0.5	0.0	3.6	191校(93.6%)
特別支援学校（肢体不自由）	49	0.3	0.0	1.9	48校(98.0%)
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	29	0.0	0.0	0.0	29校(100%)

Table2-15. ボランティアの役割

	小・中学校等	特別支援学校全体
	件数	件数
読み聞かせ	357	20
本の整理	183	7
図書館環境整備	159	2
図書の修理	137	4
図書室の装飾	56	1
貸出返却対応	52	2
掲示物作成	42	0
児童生徒のサポート	20	0
ブックカバー(ブックコート)貼り	18	2
図書館運営サポート	14	1
イベント企画運営、サポート	14	0
図書の登録、受け入れ	11	0
ブックトーク、お話し	10	0
選書	9	0
司書教諭・学校司書のサポート	5	0
読書活動推進、啓発活動	4	0
バーコードやラベル貼り	3	0
点訳などバリアフリー図書製作	1	13
その他	8	0

※複数回答あり

Table2-16. 「この2年間で障害（特別支援教育ニーズ）のある図書館利用者のサポートに関する研修を図書館運営に関わる担当者が受講した」経験の有無

	有効回答数	研修経験あり		研修経験なし	
		該当数	%	該当数	%
小・中学校等	1759	72	4.1	1687	95.9
特別支援学校	610	39	6.4	571	93.6

Table2-17. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での「この2年間で障害（特別支援教育ニーズ）のある図書館利用者のサポートに関する研修を図書館運営に関わる担当者が受講した」経験の有無

	有効回答数	研修経験あり		研修経験なし	
		該当数	%	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	44	8	18.2	36	81.8
特別支援学校（聴覚障害）	47	4	8.5	43	91.5
特別支援学校（知的障害）	205	11	5.4	194	94.6
特別支援学校（肢体不自由）	49	3	6.1	46	93.9
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	31	2	6.9	27	93.1

(2-2)学校図書館の部屋数と広さについて

- ・ 学校図書館専用の部屋の有無について、小・中学校等で4.5%、特別支援学校全体では31.2%「専用の部屋がない」という回答でした。合計233校が該当しました。
 - ・ 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校では、「専用の部屋がない」と回答したのは特別支援学校（知的障害）が最も多く、約4割の学校が該当しました。他の障害種の特別支援学校では、1部屋以上あるという回答が約8~9割でした。
 - ・ 学校図書館専用の部屋の平米数の平均として、小・中学校等では約115平米、特別支援学校全体では約60平米でした。全体的に特別支援学校の方が、学校図書館専用の部屋数および面積も、小・中学校等より数が少なく面積も狭いという傾向がみられました。単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校別の結果としては、視覚障害、病弱、特別支援学校（聴覚障害）の学校図書館専用の部屋の平米数は平均約83~140平米でしたが、特別支援学校（知的障害）は約40平米、特別支援学校（肢体不自由）では、約50平米でした。
 - ・ 学校図書館以外での配架場所については、小・中学校等で教室が最多でしたが、特別支援学校全体では、廊下が最多でした（自由記述、複数回答あり）。
- ✓ 以下、学校図書館の部屋数と広さに関する詳細な数値の表です。

Table2-18. 専用の図書館の部屋数

	0 部屋			1 部屋		2 部屋以上	
	有効回答数	該当数	%	該当数	%	該当数	%
小・中学校等	1434	65	4.5	1275	88.9	94	6.6
特別支援学校全体	539	168	31.2	342	63.5	29	5.4

Table2-19. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での専用の図書館の部屋数

	0 部屋			1 部屋		2 部屋以上	
	有効回答数	該当数	%	該当数	%	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	44	1	2.3	35	79.5	8	18.2
特別支援学校（聴覚障害）	40	3	7.5	31	77.5	6	15.0
特別支援学校（知的障害）	185	80	43.2	105	56.8	0	0.0
特別支援学校（肢体不自由）	43	8	18.6	34	79.1	1	2.3
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	25	5	20.0	18	72.0	2	8.0

Table2-20. 専用の図書館の平米数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1317	115.0	100.5	108.9
特別支援学校全体	497	57.4	41.1	109.5

Table2-21. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での専用の図書館の平米数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	42	113.9	100.5	76.5
特別支援学校（聴覚障害）	32	83.2	81.8	58.4
特別支援学校（知的障害）	170	38.9	28.8	45.8
特別支援学校（肢体不自由）	41	51.7	45.0	44.1
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	24	143.8	50.4	423.7

Table2-22. 学校図書館以外での配架場所

	小・中学校等	特別支援学校
	件数	件数
教室	<u>130</u>	23
廊下	70	<u>48</u>
フリースペース	27	18
多目的ホール	24	14
専科の教室	14	11
保健室	12	4
通級・支援学級	11	0
玄関	7	5
職員室	6	12
図書コーナー	6	10
学習室	4	5
談話室	3	6
踊り場	3	2
プレイルーム	2	7
資料室、教材室	2	3
支援室	1	1
その他	9	15

※複数回答あり

※学校図書館の部屋数に関する追加調査

追加調査の目的

実施当時に「専用の学校図書館の部屋がない」と回答された学校に、個別に電話などで事情を確認したところ、「学校図書館が正式名称と知らず、ないと勘違いしていた」「併設校なので回答に困った」などの事情が分かったため、学校図書館の設置状況について、追加の現状の精査を行うことを目的として実施しました。

調査時期

2024年2月

調査対象

令和4年度当時、専用の学校図書館ゼロ回答をした学校

- ・ 小・中学校等 65校(小・中学校等の中で4.5%)
- ・ 特別支援学校 168校(特別支援学校の中で31.2%)

合計 233校

方法

オンラインでのウェブアンケート。実施時に下記教示文を提示したうえで、回答を依頼しました。

=====

「学校図書館」は、法律の下に定められた正式な名称になります。

「図書室」といった場合、学校の中に本が集めてある”部屋”を指しますが、場所、メディア、職員、機能すべてを含む名称として「学校図書館」が使用されています。学校図書館の機能は、主に 読書センター／学習センター／情報センターの三つがあります。

(全国学校図書館協議会のウェブサイトより引用：<https://www.j-sla.or.jp/new-shishokyoyu/kisochsiki.html>)

=====

回収率

上記 233 校にメールでアンケート依頼。うち 15 件はエラーでメール送れず。

回答が得られたのは 110 校(有効回答率 47.2%)。

アンケート内容

- ① 回答者のお立場
- ② 校種
- ③ 学校図書館の設置状況
- ④ 図書を配架している空間
- ⑤ 兼用の部屋の場合の用途
- ⑥ 専用の部屋がない理由
- ⑦ 専用の部屋がない状態での運営について

※令和 4 年度の状況として回答を依頼しました。令和 5 年度から専用の学校図書館を設置したなど、状況に変化があった場合は、自由記述を依頼しました。

結果の概要

- ・ 「『図書室』という名称で、個別の専用の部屋がある。」という回答は 30 校でした。
- ・ 「『図書室兼パソコン室』というように、他の用途にも兼用で使用している部屋がある。」という回答は 39 校でした。
- ・ 「専用や兼用の部屋はないが、廊下やオープンスペースに図書を配架して図書室の代わりにしている。」という回答は 38 校でした。うち 8 校は、令和 4 年度時点では専用の部屋がなかったが、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて兼用の部屋や専用の部屋の設置を進めているという報告がありました。
- ・ 「学校のどこにも図書は配架していない。」はという回答は 3 校でした。うち 1 校は、令和 5 年度には新しく学校図書館を設置できたという報告がありました。
- ・ 今回の結果より、令和 4 年度調査時に「専用の図書館ない」回答の合計は 233 校でしたが、30 校は専用の部屋があると回答に修正があり、回収率が約 50%であることをふまえると、実

際に「専用の学校図書館がない」という回答は、233校ではなく170校ほどであることが推測されました。

- ・ 回答を修正された学校からは、回答時の確認ミスその他、「学校図書館が図書室の正式名称と知らなかった」という記述もあり、学校図書館全般に関する理解啓発も必要だと考えられました。

(2-3)学校図書館の貸出システムと蔵書・貸出状況について

- ・ 学校図書館の貸出システムはについて、「電子化されたシステム」を使用している小・中学校等は約7割、特別支援学校全体で約3割でした。特別支援学校全体の「貸出システムなし」「電子化されていないシステム」の該当数は、小・中学校等より統計的に有意に大きい数値でした。
- ・ 蔵書タイトル数の把握は、どの学校種でも約7~8割行われていました。貸し出し冊数の把握は、小・中学校等で約8割、特別支援学校全体で約6割、単一の障害種の指導を行っていると明記された特別支援学校別では、視覚障害と特別支援学校（肢体不自由）が約8割、聴覚障害、知的障害、特別支援学校（病弱・身体虚弱）では、約5~6割という結果でした。

- ✓ 以下、学校図書館の貸出システムに関する詳細な数値の表です。

Table2-23. 図書館の貸出システム

	有効回答数	貸出システムなし		電子化されていないシステム		電子化されたシステム	
		該当数	%	該当数	%	該当数	%
小・中学校等	1445	90	6.2	276	19.1	1079	74.7
特別支援学校全体	551	116	21.1	285	51.7	150	27.2

Table2-24. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校の図書館の貸出システム

	有効回答数	貸出システムなし		電子化されていないシステム		電子化されたシステム	
		該当数	%	該当数	%	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	44	6	13.6	24	54.5	14	31.8
特別支援学校（聴覚障害）	40	3	7.5	21	52.5	16	40.0
特別支援学校（知的障害）	189	53	28.0	92	48.7	44	23.3
特別支援学校（肢体不自由）	45	6	13.3	21	46.7	18	40.0
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	3	11.5	15	57.7	8	30.8

Table2-25. 蔵書タイトルの把握状況

	有効回答数	把握している		把握していない	
		該当数	%	該当数	%
		小・中学校等	1445	1181	81.7
特別支援学校全体	551	406	73.7	145	26.3

Table2-26. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での蔵書タイトルの把握状況

	有効回答数	把握している		把握していない	
		該当数	%	該当数	%
		特別支援学校（視覚障害）	44	39	88.6
特別支援学校（聴覚障害）	40	30	75.0	10	25.0
特別支援学校（知的障害）	189	137	72.5	52	27.5
特別支援学校（肢体不自由）	45	38	84.4	7	15.6
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	19	73.1	7	26.9

Table2-27. 貸し出し冊数の把握状況

	有効回答数	把握している		把握していない	
		該当数	%	該当数	%
		小・中学校等	1445	1131	78.3
特別支援学校全体	551	332	60.3	219	39.7

Table2-28. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での貸し出し冊数の把握状況

	有効回答数	把握している		蔵書把握していない	
		該当数	%	該当数	%
		特別支援学校（視覚障害）	44	37	84.1
特別支援学校（聴覚障害）	40	21	52.5	19	47.5
特別支援学校（知的障害）	189	111	58.7	78	41.3
特別支援学校（肢体不自由）	45	34	75.6	11	24.4
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	15	57.7	11	42.3

(2-4)学校図書館の蔵書・貸出状況について

- ・ 令和3年度末時点の数値として、小・中学校等の蔵書タイトル数の平均は約1万書目、貸出冊数の平均は約1万3千冊でした。特別支援学校全体では、蔵書タイトル数の平均は約5千書目、貸出冊数の平均は約1千冊でした。小・中学校等より特別支援学校の方が、蔵書数も貸出冊数も統計的に有意に少ない数値となりました。
- ・ 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での蔵書タイトル数は、特別支援学校（視覚障害）が最も多く、平均約1万書目でした。特別支援学校（知的障害）が最も少なく、平均約3千書目でした。貸出冊数としては、特別支援学校（聴覚障害）が最も多く、平均約3千書目、視覚障害と特別支援学校（病弱・身体虚弱）が最も少なく、平均約500冊でした。

Table2-29. 令和3年度末時点の蔵書タイトル数と貸し出し冊数

	令和3年度蔵書タイトル数				令和3年度貸し出し冊数			
	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1176	10463.3	9000.0	27895.6	1118	12632.1	6582.5	18623.3
特別支援学校全体	404	4838.1	3380.5	6582.7	332	1148.0	437.0	2507.5

Table2-30. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
令和3年度末時点の蔵書タイトル数と貸し出し冊数

	令和3年度蔵書タイトル数				令和3年度貸し出し冊数			
	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	39	9601.2	8826.0	5642.0	37	502.3	404.0	449.6
特別支援学校（聴覚障害）	30	8272.4	8068.5	4612.2	21	2587.9	1291.0	2668.0
特別支援学校（知的障害）	136	2903.1	2356.5	2971.2	111	996.2	250.0	1942.9
特別支援学校（肢体不自由）	38	4981.2	4354.0	3292.6	34	804.3	584.5	796.4
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	19	6075.8	5956.0	2822.0	15	480.0	360.0	444.4

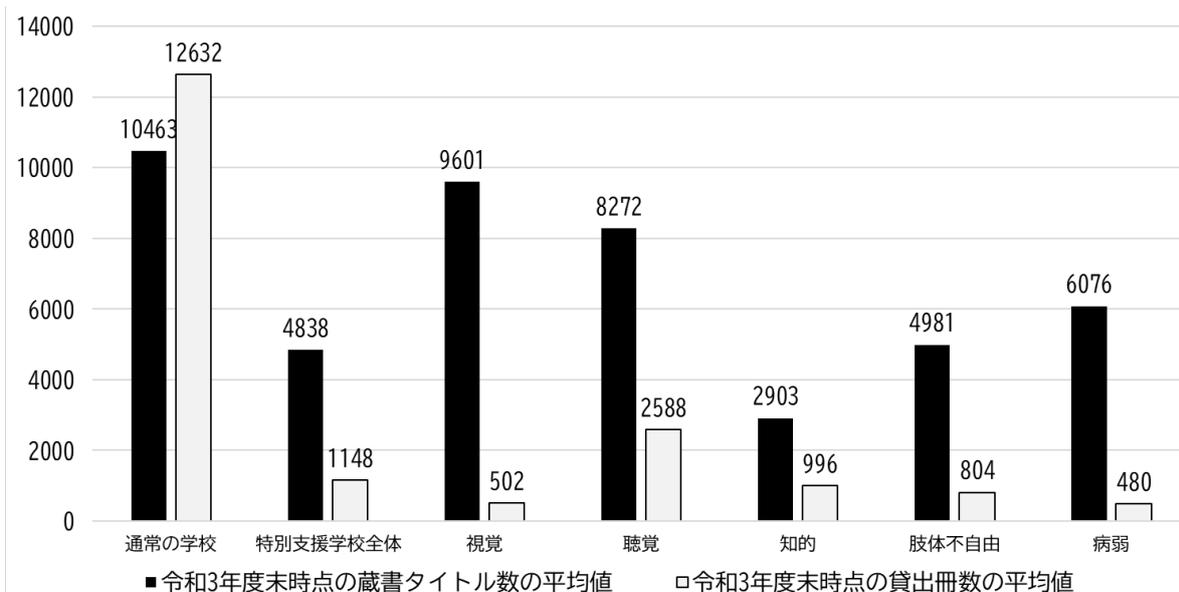


Figure1. 令和3年度末時点の蔵書タイトル数と貸し出し冊数

(2-5)学校図書館の図書購入費について

- ・ 学校図書館の図書購入費について、小・中学校等の図書購入費の平均は約40万円、うち私費(PTA会費や寄付金等)の平均は約4万円でした。特別支援学校の図書購入費の平均は約18万円、うち私費(PTA会費や寄付金等)の平均は約4万円でした。小・中学校等より特別支援学校の方が、図書購入費は有意に少ない数値となりました。
- ・ 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での図書購入費については、特別支援学校(視覚障害)が平均約24万円と最も多く、特別支援学校(肢体不自由)が平均約14万円と最も少ない結果でした。

✓ 以下、図書購入費に関する詳細な数値の表です。

Table2-30. 図書購入費

	予算全体				うち私費			
	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
小・中学校等	1400	404914.3	331000.0	347283.2	1208	37309.7	0.0	93658.3
特別支援学校全体	541	180885.7	117000.0	201884.9	466	43782.4	0.0	105038.4

Table2-31. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での図書購入費

	予算全体				うち私費			
	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差
特別支援学校（視覚障害）	43	238071.9	193106.0	204532.7	40	59397.5	2500.0	123151.9
特別支援学校（聴覚障害）	40	184019.6	102866.0	206971.7	31	18018.9	0.0	36904.4
特別支援学校（知的障害）	182	168333.5	100000.0	210839.9	153	49017.0	0.0	94407.6
特別支援学校（肢体不自由）	45	136817.9	112000.0	106521.7	37	31826.3	0.0	71422.7
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	25	168134.6	130000.0	142406.1	25	18338.8	0.0	46509.2

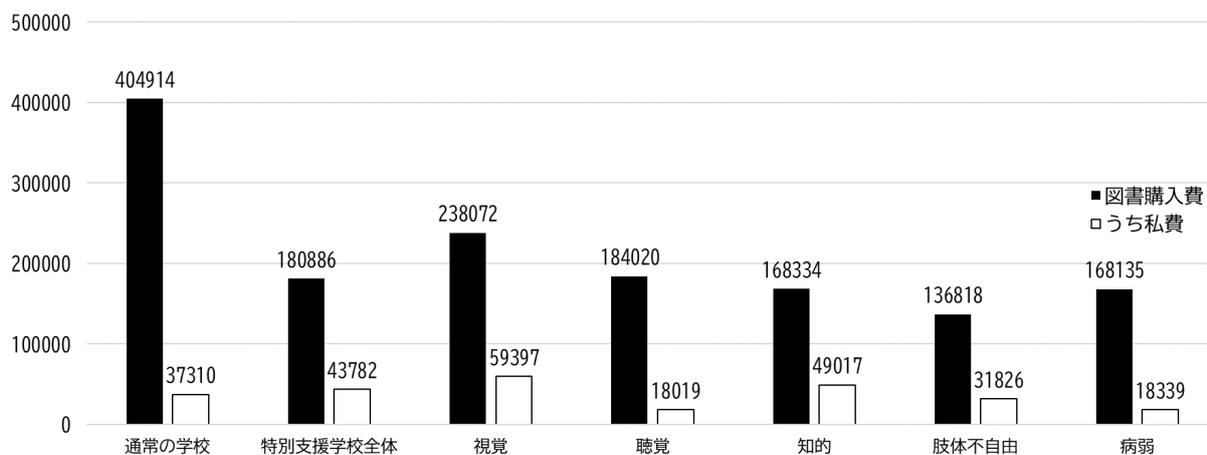


Figure2. 各学校種での平均図書購入費

(3-1)バリアフリー図書・資料の蔵書状況について

- ・ バリアフリー図書・資料の種類として、本調査では点字図書、録音図書、拡大文字図書、LLブック、さわる絵本、布の絵本、マルチメディアデージー、テキストデータ、EPUB、DOCX、PDF、手話付き映像メディアについて回答を求めました。
- ・ バリアフリー図書・資料について、約7割～9割の小・中学校等、約6割～9割の特別支援学校に蔵書がないことが分かりました。
- ・ 特別支援学校全体においては、点字図書や拡大図書等は2割程度、さわる絵本も4割程度蔵書があるようです。特別支援学校には、障害種ごとの困難さに対応した蔵書がある学校もあるようですが、標準偏差から偏りも大きく、蔵書がある学校とない学校の差が大きい可能性が示唆されました。
- ・ 単一の障害種の指導を行っている明記された特別支援学校において、特別支援学校（視覚障害）では、点字図書の蔵書は回答のあったすべての学校で蔵書していることが示されました。一方で、例えば特別支援学校（知的障害）では、LLブック等の蔵書が期待されますが、約9割の特別支援学校（知的障害）でLLブックの蔵書がゼロという回答でした。LLブックの蔵書がある特別支援学校（知的障害）でも、平均約16冊という結果でした。LLブック蔵書数の最大値は115冊ということもあり、特別支援学校の障害種別でも、蔵書がある学校とない学校の差が大きい可能性が示唆されました。
- ・ デジタルデータ(テキストデータやEPUB等)については、小・中学校等、特別支援学校ともに、蔵書はほぼないという結果でした。
- ・ 蔵書がある学校は、学校予算での購入の他、寄贈での入手が多いようです。
- ・ 「バリアフリーな図書・資料を入手したことがない、または積極的な入手に困難さを感じている理由」については、「特に困っていない」という回答が約4～6割、「依頼されたことがない」が約1～4割と多く、読書ニーズの把握から課題があることが推察されました。

- ✓ 以下、バリアフリー図書・資料の蔵書状況に関する詳細な数値の表です。

Table3-1. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
小・中学校等数と割合(n=1818)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	1407	1029	73.1
録音図書	1407	1340	95.2
拡大文字図書	1408	1294	91.9
LL ブック	1409	1321	93.8
さわる絵本	1406	1080	76.8
布の絵本	1409	1381	98.0
マルチメディアデイジー	1408	1367	97.1
テキストデータ	1408	1403	99.6
EPUB	1409	1404	99.6
DOCX	1409	1406	99.8
PDF	1409	1409	100.0
手話付き映像メディア	1409	1399	99.3

Table3-2. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校全体数と割合(n=628)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	530	431	81.3
録音図書	530	425	80.2
拡大文字図書	531	432	81.4
LL ブック	532	454	85.3
さわる絵本	530	329	62.1
布の絵本	530	409	77.2
マルチメディアデイジー	530	388	73.2
テキストデータ	532	520	97.7
EPUB	532	530	99.6
DOCX	532	530	99.6
PDF	532	526	98.9
手話付き映像メディア	532	499	93.8

Table3-3. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校（視覚障害）数と割合(n=45)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	42	0	0.0
録音図書	43	1	2.3
拡大文字図書	42	1	2.4
LL ブック	43	30	69.8
さわる絵本	42	3	7.1
布の絵本	42	16	38.1
マルチメディアデイジー	43	8	18.6
テキストデータ	43	35	81.4
EPUB	43	43	100.0
DOCX	43	43	100.0
PDF	43	42	97.7
手話付き映像メディア	43	42	97.7

Table3-4. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校（聴覚障害）数と割合(n=49)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	38	32	84.2
録音図書	37	32	86.5
拡大文字図書	38	36	94.7
LL ブック	38	31	81.6
さわる絵本	38	25	65.8
布の絵本	38	31	81.6
マルチメディアデイジー	38	29	76.3
テキストデータ	38	37	97.4
EPUB	38	37	97.4
DOCX	38	37	97.4
PDF	38	37	97.4
手話付き映像メディア	38	18	47.4

Table3-5. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校（知的障害）数と割合(n=209)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	181	172	95.0
録音図書	181	171	94.5
拡大文字図書	181	162	89.5
LL ブック	181	161	89.0
さわる絵本	181	144	79.6
布の絵本	181	163	90.1
マルチメディアデイジー	180	155	86.1
テキストデータ	181	180	99.4
E PUB	181	181	100.0
DOCX	181	181	100.0
PDF	181	179	98.9
手話付き映像メディア	181	179	98.9

Table3-6. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校（肢体不自由）数と割合(n=55)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	45	35	77.8
録音図書	45	29	64.4
拡大文字図書	45	38	84.4
LL ブック	45	37	82.2
さわる絵本	45	15	33.3
布の絵本	45	22	48.9
マルチメディアデイジー	45	22	48.9
テキストデータ	45	45	100.0
E PUB	45	45	100.0
DOCX	45	45	100.0
PDF	45	45	100.0
手話付き映像メディア	45	44	97.8

Table3-7. 「蔵書タイトル数がゼロ」と回答した
特別支援学校（病弱・身体虚弱）数と割合(n=31)

	有効回答数	該当数	%
点字図書	26	22	84.6
録音図書	26	22	84.6
拡大文字図書	26	22	84.6
LLブック	26	23	88.5
さわる絵本	26	17	65.4
布の絵本	26	25	96.2
マルチメディアデイジー	26	18	69.2
テキストデータ	26	26	100.0
E PUB	26	26	100.0
DOCX	26	26	100.0
PDF	26	26	100.0
手話付き映像メディア	26	26	100.0

Table3-8. 点字図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	378	6.2	3.5	7.9	1	100
特別支援学校全体	99	1229.5	20.0	2345.0	1	14300

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-9. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での
点字図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	42	2590.6	1593.5	2910.9	100	14300
特別支援学校（聴覚障害）	6	26.8	3.0	60.3	1	150
特別支援学校（知的障害）	9	4.1	3.0	4.5	1	15
特別支援学校（肢体不自由）	10	3.1	2.0	2.6	1	10
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	4	6.3	6.0	3.0	3	10

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-10. 録音図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	67	22.5	6.0	85.2	1	700
特別支援学校全体	105	355.0	58.0	727.9	1	5664

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-11. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での録音図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	43	600.5	333.0	956.3	20	5664
特別支援学校（聴覚障害）	5	154.2	5.0	324.3	1	734
特別支援学校（知的障害）	10	43.1	5.5	88.1	1	284
特別支援学校（肢体不自由）	16	109.3	16.5	205.6	5	734
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	4	19.5	19.0	13.3	8	32

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-12. 拡大図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	114	17.4	10.0	23.5	1	187
特別支援学校全体	99	173.1	49.0	306.8	1	2369

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-13. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での拡大図書の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	41	354.1	267.0	395.1	30	2369
特別支援学校（聴覚障害）	2	6.0	6.0	7.1	1	11
特別支援学校（知的障害）	19	12.1	10.0	10.1	1	38
特別支援学校（肢体不自由）	7	42.0	50.0	32.3	8	92
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	4	16.3	4.0	26.6	1	56

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-14. LL ブックの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	88	8.4	4.0	13.1	1	100
特別支援学校全体	78	14.4	7.0	31.4	1	240

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-15. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での LL ブックの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	13	8.1	6.0	6.7	1	21
特別支援学校（聴覚障害）	7	4.9	3.0	5.3	1	15
特別支援学校（知的障害）	20	16.1	10.5	25.0	1	115
特別支援学校（肢体不自由）	8	11.0	5.0	16.4	2	51
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	3	2.0	1.0	1.7	1	4

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-16. さわる絵本の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	326	4.4	3.0	4.3	1	30
特別支援学校全体	201	29.5	10.0	57.0	1	393

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-17. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での さわる絵本の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	39	84.9	50.0	91.3	5	393
特別支援学校（聴覚障害）	13	4.5	3.0	4.3	1	15
特別支援学校（知的障害）	37	8.3	5.0	9.5	1	50
特別支援学校（肢体不自由）	30	28.4	18.0	36.9	1	200
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	9	6.6	5.0	7.6	1	26

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-18. 布の絵本の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	28	2.9	2.0	2.5	1	10
特別支援学校全体	121	7.1	4.0	8.7	1	50

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-19. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での布の絵本の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	26	7.3	5.0	9.6	1	50
特別支援学校（聴覚障害）	7	1.9	1.0	1.6	1	5
特別支援学校（知的障害）	18	4.8	2.0	4.7	1	15
特別支援学校（肢体不自由）	23	9.6	9.0	10.8	1	50
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	1	4.0	4.0	--	4	4

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-20. マルチメディアデジターの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	41	88.6	3.0	210.5	1	734
特別支援学校全体	142	192.6	30.0	284.8	1	1639

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-21. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校でのマルチメディアデジターの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	35	128.6	30.0	235.4	1	1000
特別支援学校（聴覚障害）	9	148.3	16.0	274.5	1	734
特別支援学校（知的障害）	25	217.9	66.0	262.7	1	734
特別支援学校（肢体不自由）	23	216.1	46.0	256.2	2	734
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	8	132.5	12.5	257.3	1	734

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-22. テキストの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	5	4.4	3.0	5.0	1	13
特別支援学校全体	12	6.6	2.0	11.8	1	41

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-23. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
テキストの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	8	9.4	3.0	13.9	1	41
特別支援学校（聴覚障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（知的障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（肢体不自由）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	0	--	--	--	--	--

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-24. EPUBの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	5	7.6	1.0	14.2	1	33
特別支援学校全体	2	1.0	1.0	0.0	1	1

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-25. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での
EPUBの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（聴覚障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（知的障害）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（肢体不自由）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	0	--	--	--	--	--

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-26. DOCX の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	2	1.0	1.0	0.0	1	1
特別支援学校全体	2	1.0	1.0	0.0	1	1

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-27. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での DOCX の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（聴覚障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（知的障害）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（肢体不自由）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	0	--	--	--	--	--

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-28. PDF の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	3	1.3	1.0	0.6	1	2
特別支援学校全体	6	1.8	1.0	2.0	1	6

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-29. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での PDF の蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	1	6.0	6.0	--	6	6
特別支援学校（聴覚障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（知的障害）	2	1.0	1.0	0.0	1	1
特別支援学校（肢体不自由）	0	--	--	--	--	--
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	0	--	--	--	--	--

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-30. 手話付き映像メディアの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
小・中学校等	10	3.4	1.0	4.9	1	15
特別支援学校全体	33	13.9	2.0	25.1	1	124

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-31. 単一の障害種の指導を行っているとして明記された特別支援学校での手話付き映像メディアの蔵書タイトル数

	有効回答数	平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
特別支援学校（視覚障害）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（聴覚障害）	20	18.4	4.5	29.5	1	124
特別支援学校（知的障害）	2	2.0	2.0	0.0	2	2
特別支援学校（肢体不自由）	1	1.0	1.0	--	1	1
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	0	--	--	--	--	--

※有効回答数は校数、平均値以降はタイトル数

Table3-32. バリアフリーな図書・資料を入手したことがない、または積極的な入手に困難さを感じている理由

	小・中学校等 (n=1818)		特別支援学校全体 (n=628)	
	該当数	%	該当数	%
特に困っていない	729	40.1	271	43.2
依頼されたことがない	652	35.9	168	26.8
どの媒体が児童生徒のニーズに合っているかが分からない	466	25.6	94	15.0
予算がない	456	25.1	179	28.5
入手方法が分からない	137	7.5	52	8.3
音訳ボランティアなどの製作人材がない	109	6.0	40	6.4
製作方法が分からない	83	4.6	34	5.4
希望の図書が取り寄せ先がない	26	1.4	12	1.9

※複数回答あり

Table3-33. バリアフリーな図書・資料を入手したことがない、または積極的な入手に
困難さを感じている理由

	視覚 (n=45)		聴覚 (n=49)		知的 (n=209)		肢体 (n=51)		病弱 (n=31)	
	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
特に困っていない	18	40.0	21	42.9	98	46.9	19	37.3	19	61.3
依頼されたことがない	6	13.3	11	22.4	62	29.7	13	25.5	8	25.8
どの媒体が児童生徒のニーズ に合っているかが分からない	1	2.2	2	4.1	37	17.7	7	13.7	7	22.6
予算がない	19	42.2	11	22.4	65	31.1	14	27.5	8	25.8
入手方法が分からない	0	0.0	2	4.1	20	9.6	3	5.9	1	3.2
音訳ボランティアなどの 製作人材がない	5	11.1	1	2.0	13	6.2	2	3.9	0	0.0
製作方法が分からない	1	2.2	1	2.0	16	7.7	1	2.0	1	3.2
希望の図書が取り寄せ先にな い	5	11.1	2	4.1	2	1.0	0	0.0	0	0.0

※複数回答あり

(3-2)学校図書館としてバリアフリーなものにした図書・資料の種別

- ・ 学校図書館としてバリアフリーなものにした図書・資料の種別について、本調査では、絵本、物語等の一般書籍、読書感想文の課題図書、学級便り等の配布物、問題集・ドリル、副教材、理療科等の教科書、参考書、雑誌、資料集、地域副読本、楽譜、ワークシート、漫画、辞典・辞書、地図、修学旅行等のしおり、授業で配布するプリント、授業内のテスト、学力テスト、検定教科書、定期テストについて回答を求めました。
- ・ 学校図書館としてバリアフリーなものにした図書・資料の種別については、絵本と物語等の一般書籍が最も多い結果でした(複数回答あり)。ほとんどの図書・資料で0~1割満たない結果でしたが、特別支援学校(視覚障害)では、いずれの種別でもバリアフリーなものにしたという回答がみられ、絵本や物語等の一般書籍は約4割の回答が得られました。
- ・ 小・中学校等では、少数ですが、絵本や物語等の一般書籍以外にも、ワークシートや副教材、授業で配布するプリントをバリアフリー化したという回答がみられました(4~6回答)。

- ✓ 以下、学校図書館としてバリアフリーなものにした図書・資料の種別に関する詳細な数値の表です。

Table3-33. 学校図書館として製作したバリアフリー図書・資料の種別

	小・中学校等(n=1818)		特別支援学校全体(n=628)	
	該当数	%	該当数	%
絵本	12	0.7	37	5.9
物語等の一般書籍	11	0.6	24	3.8
読書感想文の課題図書	2	0.1	10	1.6
学級便り等の配布物	3	0.2	10	1.6
問題集・ドリル	2	0.1	9	1.4
副教材	4	0.2	7	1.1
理療科等の教科書	0	0.0	5	0.8
参考書	1	0.1	5	0.8
雑誌	0	0.0	4	0.6
資料集	1	0.1	4	0.6
地域副読本	1	0.1	4	0.6
楽譜	0	0.0	4	0.6
ワークシート	6	0.3	4	0.6
漫画	1	0.1	3	0.5
辞典・辞書	1	0.1	3	0.5
地図	1	0.1	3	0.5
修学旅行等のしおり	1	0.1	3	0.5
授業で配布するプリント	4	0.2	3	0.5
授業内のテスト	1	0.1	3	0.5
学力テスト	1	0.1	3	0.5
検定教科書	0	0.0	2	0.3
定期テスト	0	0.0	2	0.3

Table3-34. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での
学校図書館として製作したバリアフリー図書・資料の種別

	視覚 (n=45)		聴覚 (n=49)		知的 (n=209)		肢体 (n=51)		病弱 (n=31)	
	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
絵本	18	40.0	0	0.0	7	3.3	5	9.8	0	0.0
物語等の一般書籍	20	44.4	0	0.0	2	1.0	0	0.0	0	0.0
読書感想文の課題図書	8	17.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
学級便り等の配布物	6	13.3	1	2.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0
問題集・ドリル	8	17.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
副教材	6	13.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
理療科等の教科書	5	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
参考書	5	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
雑誌	4	8.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
資料集	4	8.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
地域副読本	4	8.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
楽譜	2	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ワークシート	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
漫画	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
辞典・辞書	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
地図	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
修学旅行等のしおり	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
授業で配布するプリント	2	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
授業内のテスト	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
学力テスト	3	6.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
検定教科書	2	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
定期テスト	2	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(4)バリアフリー図書・資料の製作・取り寄せ・提供経験について

- ・ 9割の学校で、バリアフリー図書・資料の製作や、他館からの取り寄せ、他館への提供の経験はないという回答でした。
- ・ 特別支援学校（視覚障害）では、バリアフリー図書の製作経験ありが約5割、他館からの取り寄せ経験は約6割、他館への提供経験は約1割という結果が得られました。

✓ 以下、バリアフリー図書・資料の製作・取り寄せ・提供経験に関する詳細な数値の表です。

Table4-1. 製作経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
小・中学校等	1409	30	2.1
特別支援学校全体	531	46	8.7

Table4-2. 単一の障害種の指導を行っている
と明記された特別支援学校で製作経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	43	23	53.5
特別支援学校（聴覚障害）	38	1	2.6
特別支援学校（知的障害）	180	6	3.3
特別支援学校（肢体不自由）	45	5	11.1
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	0	0.0

Table4-3. 取り寄せ経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
小・中学校等	1405	65.0	4.6
特別支援学校全体	528	63.0	11.9

Table4-4. 単一の障害種の指導を行っている
と明記された特別支援学校で取り寄せ経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	43	26.0	60.5
特別支援学校（聴覚障害）	38	6.0	15.8
特別支援学校（知的障害）	180	9.0	5.0
特別支援学校（肢体不自由）	45	7.0	15.6
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	2.0	7.7

Table4-5. 提供経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
小・中学校等	1404	8.0	0.6
特別支援学校全体	519	9.0	1.7

Table4-6. 単一の障害種の指導を行っている
と明記された特別支援学校で提供経験がある学校数

	有効回答数	該当数	%
特別支援学校（視覚障害）	43	5.0	11.6
特別支援学校（聴覚障害）	38	0.0	0.0
特別支援学校（知的障害）	180	2.0	1.1
特別支援学校（肢体不自由）	45	0.0	0.0
特別支援学校（病弱・身体虚弱）	26	0.0	0.0

(5)著作権法 37 条や読書バリアフリー法等について

- ・ 学校図書館ができるバリアフリー図書・資料の製作やその共有、またデータの公衆送信ができることについて、「知っている」という回答は約 1 割、「知っているが具体的にはわかっていない」という回答は約 3 割でした。
- ✓ 以下、著作権法 37 条や読書バリアフリー法等に関する詳細な数値の表です。

Table5-1. 学校図書館でさまざまなバリアフリー図書の製作（複製）が自由にできることを知っていた学校数

	小・中学校等 (n=1393)		特別支援学校全体 (n=521)	
	該当数	%	該当数	%
知っている	158	11.3	86	16.5
知っているが具体的にはわかっていない	501	36.0	199	38.2
知らなかった	734	52.7	236	45.3

Table5-2. 単一の障害種の指導を行っている」と明記された特別支援学校での学校図書館でさまざまなバリアフリー図書の製作（複製）が自由にできることを知っていた学校数

	視覚 (n=43)		聴覚 (n=38)		知的 (n=179)		肢体 (n=44)		病弱 (n=26)	
	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
知っている	22	51.2	3	7.9	20	11.2	7	15.9	2	7.7
知っているが具体的にはわかっていない	18	41.9	19	50.0	73	40.8	13	29.5	9	34.6
知らなかった	3	7.0	16	42.1	86	48.0	24	54.5	15	57.7

Table5-3. 製作した図書やそのデータを他の図書館と共有（相互貸借やダウンロード）できることを知っていた学校数

	小・中学校等 (n=1393)		特別支援学校全体 (n=521)	
	該当数	%	該当数	%
知っている	153	11.0	71	13.6
知っているが具体的にはわかっていない	384	27.6	165	31.7
知らなかった	856	61.5	285	54.7

Table5-4. 単一の障害種の指導を行っているとは明記された特別支援学校で、
製作した図書やそのデータを他の図書館と共有（相互貸借やダウンロード）できることを知っていた学校数

	視覚 (n=43)		聴覚 (n=38)		知的 (n=179)		肢体 (n=44)		病弱 (n=26)	
	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
知っている	20	46.5	2	5.3	17	9.5	6	13.6	2	7.7
知っているが具体的に はわかっていない	18	41.9	13	34.2	58	32.4	11	25.0	9	34.6
知らなかった	5	11.6	23	60.5	104	58.1	27	61.4	15	57.7

Table5-5. 図書データの公衆送信（メール添付・専用サイトからの
ダウンロード・オンライン読み聞かせ等）ができることを知っていた学校数

	小・中学校等 (n=1393)		特別支援学校全体 (n=521)	
	該当数	%	該当数	%
知っている	140	10.1	84	16.1
知っているが具体的にはわかっていない	351	25.2	141	27.1
知らなかった	902	64.8	296	56.8

Table5-6. 単一の障害種の指導を行っているとは明記された特別支援学校で、
図書データの公衆送信（メール添付・専用サイトからの
ダウンロード・オンライン読み聞かせ等）ができることを知っていた学校数

	視覚 (n=43)		聴覚 (n=38)		知的 (n=179)		肢体 (n=44)		病弱 (n=26)	
	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%	該当数	%
知っている	23	53.5	4	10.5	22	12.3	8	18.2	5	19.2
知っているが具体的に はわかっていない	15	34.9	9	23.7	45	25.1	9	20.5	6	23.1
知らなかった	5	11.6	25	65.8	112	62.6	27	61.4	15	57.7

(6)読書バリアフリーに関する課題感やご意見について

- ・ 読書バリアフリーに関する課題感や意見を自由記述で求めた結果(複数回答あり)、「読書バリアフリーの具体的な取り組みに関する情報源の少なさ」という課題を感じている回答が最も多くみられました。
- ・ 他には、「予算の少なさ」や「時間・人員の少なさ」を課題に挙げている回答が多くみられました。特別支援学校では、小・中学校等よりも「司書(専任職員)の配置について」を課題とする回答が多くみられました。

✓ 以下、読書バリアフリーに関する課題感やご意見に関する詳細な数値の表です。

Table6. 学校での読書バリアフリーの実現に関して、課題やご意見

	小・中学校等 件数	特別支援学校 件数
読書バリアフリーの具体的な取り組みに関する情報源の少なさ	87	31
予算について	37	21
対応を検討したい	26	9
時間・人員が少ない	23	20
生徒のニーズの把握について	20	20
環境整備について	15	8
校内でのニーズがない	10	1
校内での読書バリアフリー意識向上	7	1
読書活動の充実について	6	10
バリアフリー図書が少ない	5	4
図書館との連携について	5	3
司書(専任職員)の配置について	4	18
施設のバリアフリー化が困難	3	3
電子図書などの利用について	2	6
図書室がない	0	6
本の破損の心配	0	3
その他	15	11

※複数回答あり

以上